

春

vol.67

2019.04

My Polaris
坂之上院長の
ポイント

ポラリス(北極星)を目指すには
北極星を見分けること。
目指すところ(方向)は一緒でも
やり方はそれぞれ多種多様。
一人一人の思いをエッセイの形で
伝えたい。

ときめき
Beating
Kashima
鹿島

院長 坂之上 一史

本年4月1日から清水先生の後を受けて鹿島病院の院長を拝命いたしました。微力ではございますがどうぞよろしくお願い致します。

鹿島病院は故小鯖院長の時代の平成15年に特殊疾患病棟を、平成20年に回復期病棟を立ち上げ、さらに清水院長によって平成29年10月に地域包括ケア病床を開設いたしました。鹿島病院の目指す方向はこれまで築いてきた資源を有効に生かして地域の皆様に良質なリハビリを提供すること、さらには地域の医療機関、介護施設との連携をもとに浜北地域における回復期、慢性期医療に貢献することの2つと理解しています。リハビリについては回復期病棟を主に地域包括ケア病床や、介護保険を利用した通所リハビリ、訪問リハビリ等を有効に利用して入院・在宅を問わず滑らかに提供できる体制を築いてゆきたいと思っております。連携については急性期病院、医師会をはじめとした地元の診療所の先生方、保健所、県や市などの行政、さらにケアマネジャーの皆さんとの緊密な関係を築いて患者さん、利用者さんが安心して医療や介護が受けられる体制を作りたいと思っております。10年前まで鹿島病院全体での平均在院日数は140日以上でしたが現在は100日を切ろうとしています。回復期病棟では70日前後に包括ケア病床では40日以下と短くなっています。それでも急性期病院の平均在院日数15日以下に比べれば余裕があります。高齢の患者さんは医療者側が治ったと思っても患者さん自身は治っていない、体調が不良であると感じている方が多いように思います。鹿島病院で働く我々はPETやMRIなどの高度の医療器械は持っていませんし今後も持つことは考えていませんが、時間というアドバンテージは短くなったとはいえ依然として持っています。これを生かして患者さん、利用者さんに満足してもらえる医療、看護、介護、リハビリを多職種により提供したいと思っております。橋北地区唯一の慢性期病院という言葉に甘えることなく、我々の技量を磨いてゆきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願い致します。



研

修

医

を



研修医 野々村 早弥先生



私の祖母は人に何かとものをあげたがる性格なのですが、以前リハビリ目的で慢性期病院に入院していた時に、リハビリのセラピストの方にお礼の贈り物を渡したいと言っていました。当時の私は、なぜ医師でもなく看護師でもなくセラピストに？と



思っていました。鹿島病院に来てその理由がわかったような気がします。まずセラピストは患者さんに継続してそばに付いている時間が一番長いことが理由の一つではないかと思いました。例えばリハビリを3単位行えば1時間付っきりとなるので、患者さんは医師よりも看護師よりも長い時間近くにいてくれたと感じるのではないかと思います。そしてリハビリ目的の入院では特にセラピストの影響は大きく、



入院時にできなかったことがリハビリを継続することでできるようになったとなれば、セラピストにお礼がしたくなるのも当然だなと思いました。



また、看護師と相談しながら診療することは今までもしてきましたが、多職種でカンファレンスを行うことで、セラピストや栄養士、歯科衛生士、MSWの方々からの視点も知ることができ、患者さんに対する理解が深まりました。カンファレンス以外の時にも声をかけてくださったので職種の壁を感じにくく、相談しやすい環境がとても居心地がよかったです。

このように、鹿島病院では医師、看護師以外の方々とも色々な話ができ、それぞれの職種に対する理解も少し深まったと思います。患者さんとも普段より時間をかけてゆっくり話すことができました。1カ月間ありがとうございました。



終

え

て



松江市立病院 研修医2年次 石倉 凱先生

鹿島病院での研修を終えて

慢性期病院での医療を経験することを目的に鹿島病院で1ヶ月間研修させていただきました。しかし予想外に何よりも多く経験することができたのは予防接種の経験でした。1ヶ月間で300例近い予防接種投与をやらせていただき、医師としての基礎力を向上することができました。

鹿島病院は患者さんの多くが安定した状態で入院されているため、一人一人について治療・療養計画をじっくりと考える機会があり、長期的な内服薬の調整やリハビリ・食事の指示といった経験も得られました。



また、鹿島病院は医師とコメディカルスタッフとの垣根が低い印象を受けました。少し階段を昇降すれば患者さんのリハビリ・食事形態などについて相談しに行くことが可能であり、スタッフの皆さんも嫌な顔一つせず優しく出迎えてくださるため気軽に何度も足を運ぶことができました。そのおかげで普段の診療では学ぶことのできない、医療における各分野からの視点を学ぶことができました。患者さんの中には“お医者様”の前では取り繕ったり症状の訴えをしない方もおられるため、コメディカルスタッフと意見交換することがとても重要だと学びました。

1ヶ月と短い期間ではありましたが、一人一人の患者さんと向き合うための時間と多くの視を得ることができる良い経験となりました。これからも医師としても、一人間としてもより一層精進していかなければならないと感じています。1ヶ月間お世話になりました。



第16回院内研究発表大会の大会長を務めさせていただきました田中です。今回大会長という形で参加させていただき、大会を通して多くのことを感じ、学ぶことができました。

4階病棟の院内研究に一部分ではありますが、参加させていただき研究を完成させることの難しさも学ぶことが出来ました。また、研究をよりいいものにするためには、メンバーが協力し、研鑽することで研究の質を向上することが出来ると感じました。大会長として不慣れな部分が多く、委員に助けていただきながら大会を無事に終えることができました。院内研究発表大会に参加することで多くの知識を学び、メンバーとの協力の大切さを再確認ができ、今回のテーマのように止まらず、進み続けていこうと思えました。

大会初参加で、若輩の身ながら大会長という大役を任せていただき無事に終了できたのは皆様の支えがあったからです。再度、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

審査結果

1位

**多職種による週1回の栄養モニタリングは栄養改善に有効である
～回復期病棟での栄養評価・管理方法の検討～**

チーム名 〈回復期栄養チーム(回復期リハビリテーション病棟)〉

2位

地域包括ケア病床入院患者の分析

チーム名 〈パピヨン(医療相談部)〉

3位

通りハ進化!! ～円満卒業へ繋がる何かを掴め～

チーム名 〈Young☆Powers(通所リハビリテーション)〉

特別
審査員賞

**4F病棟の移乗動作スキルUPを目指して
勉強会開催による解除技術の向上と連れ出し業務の効率化について**

チーム名 〈移乗戦隊ウツルンジャー(リハ部療養チーム&4階病棟)〉



表彰式の様子



発表の様子



表彰者記念撮影

地域連携室便り

62

H30年度
倫理研修会について

医療相談部 小林 裕恵

H31年3月28日、泉胃腸科医院の泉明夫先生を講師としてお招きして「在宅医療と臨床倫理について」というテーマでお話いただきました。

泉先生は医師になられた当初から、「手術をした患者は全責任を負う気持ちで過ごしてきた。振り返ると、亡くなられた患者さんのことを思い出す。心が折れたり、へこんだりしたことがいっぱいあるが、先輩、看護師さん、患者さんなどからいろいろ学び辛さをバネにしてきました。」と振り返られました。



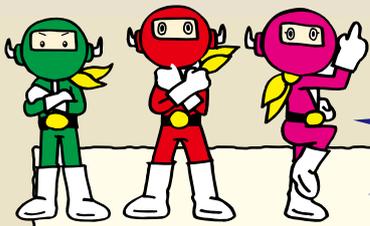
また「臨床倫理は、医師だけが考えるのではなく、看護師さんやケアチームと共有するもので、医療者やケアチームは、日常の医療、ケア現場で、いろいろなもやもや感、疑問を感じ、話し合いを通して、“倫理的ジレンマ”に気づくことが大事。医師（私）の判断は必ずしも正しいわけではない。多くの人の声を大事にしたいと思う。現実、反省、自問自答の繰り返しだ。」とお話してくださいました。

出席者の皆さんからは、
さまざま感想が寄せられました。

過去に出会った患者様を何度も何度も振り返っておられる泉先生の医療に対する姿勢や思いに、とても感銘を受けました。立場や目線や見方を変えることで様々なことに気づかされることがわかりました。とても素晴らしいお話をありがとうございました。（事務）

私も臨床で悩むことがあります。食べられなくなった時＝寿命のようにも思いますし、長く生きてほしいと思う家族の気持ちもあるので、経鼻経管をすることがよいことなのか、何もしないことがよいことなのかわかりません。しかし先生が実践しているように、死について考える、家族と話す機会を若いうちから持つことで本人の思いが明らかになり、意思決定できると思いました。（栄養士）





鹿島レンジャーに学ぶ(12)

～「鹿島病院の唄」大合唱への軌跡～

本当にうれしい時って…の巻

診療部 戸田 博敏



「岡さん(司会進行)アナウンス:「皆さん、ご起立下さい」会場が総立ちになり、照明が落とされ、ピアノ生演奏による鹿島病院の唄のイントロが流れ出しました。ステージスクリーンに院長室、院長の机、その上に置かれた美しい(もっと気の利いた言葉があればと思いますが)ピンクのシクラメン、それを背景に「鹿島病院の唄 作詞・作曲 小鯖覚」が映し出されました。先生は、それまでの流れからすべてを察知されたと思います。サプライズプレゼント小鯖先生を囲んで「鹿島病院の唄」大合唱がベールを脱いだ瞬間です。私はこのタイトルスライドが映し出されるのを見たとき、口パク(口がパクパクするだけ)になってすぐに声がでないのにはまいりました。もう何も隠すことはありません。後は、心を込めて一生懸命歌うだけです。

幼い頃の夢だった 病に苦しむ人のこころ …♪
ほんの少しでもいいから 支えになりたいと願った …♪

そんな思いの人が集う ちっぴりだけこの病院(いえ) …♪
(事務部の原君が客席でピースサインしています)

年老いた人の心に あなたの声がとどく …♪
ときめいて鹿島 きらめいてこの病院(いえ) …♪
(この時点で先生まだ椅子にすわられてました)
あなたのやさしさが この街を覆い尽くすまで …♪

思い通りに動かぬ手足 もっとそれ以上に動かぬ心 …♪
(レンジャーが参加を促してくれたので、先生いつの間にか立ち上がり大合唱に加わられていました。まさに白眉、皆で大合唱)
年を重ねるといことは 幸せではないかもしれない …♪

今の私にできること 与えられた皆さんの幸せ …♪
ほんの少しでもいいから あの病人(ひと)に与えてあげたい …♪
(巧まぬ輪唱、エコーがかかるのもご愛敬、優しい歌声です)

ときめいて鹿島 きらめいてこの病院(いえ) …♪
あなたの優しさが この街を覆い尽くすまで …♪
(職員とシクラメンの鉢の組み合わせの映像が次々と流れていきます。御来賓の方の中にも目に光るものが…シクラメンが素晴らしいから?職員の笑顔がとびきりすてきだから?)

ときめいて鹿島 きらめいてあなた …♪
すべての人(病人)に あの日の微笑がもどるまで …♪
(ピアノのアウトロが流れる中、エンディングスライドがスクリーンに映し出されます。クレジットロール、上がっていく字幕、パワーポイントのアニメーション機能が駆使されています。配役が次々と表示されます。以下、配役(担当者名省略)、「鹿島病院の唄」大合唱:企画、タクト、ピアノ、ギター、合唱;

全職員、PCスライド製作、PCスライド操作、照明、音響、大道具、アナウンス、マイク、CD製作、CD歌唱、ハンドベル「鹿島レンジャー」;レッド、ピンク、グリーン、悪役、人質・脚本・原案。

完 ご協力ありがとうございました。

の文字が映し出され、と同時にピアノが弾き終わると、会場、鳴りやまめ拍手…

拍手の中、大月(当時看護部長)さん、花束を抱え登壇。「院長(当時)先生退院おめでとうございます。そして、鹿島病院へおかえりなさい。もう一度、拍手!」会場拍手。

客席に向かって、深々とお辞儀される先生。マイクを、持たれた先生の第一声、「サプライズでした。」会場からクスクスっと笑い声。この言葉を聞いたのは本望でした。やって良かった。期待していたことが、あまりにもその通りになって、不思議な気さえました。

小鯖 覚 先生 挨拶 全文

「1年前は、みんなをびっくりさせたらと思って井上君と2人で唄を歌ったんですが…、一番嬉しかったのは、それが、みんなで歌ってもらえる大合唱といえますか、えー、うん、この唄がここまでなってくれたのかなと思って感無量であります。

あの一、この1年非常に苦しかったのは、…(少しおどけた感じで)あの一、もう終わりの言葉になってしまったな、これ、(会場:笑い)。まあ一、私にとりまして非常につらい1年でございまして、ただ、あの一、病人になったっていうのは、ある意味良かった。視線が全く違うわけでありまして、えー、やはり、みんなが病気になったらいいというわけではないんですけど、こういう経験ができたということは、今後の私の残された時間、それがどのくらいかわからないんですけど、それに邁進できる一つのパワーと確実にすると確信しております。えー、本当に、本当にうれしい時っていうのは、あまりしゃべれないですね、えー、あの一、本当に、ありがとう。」深々とお辞儀される先生。会場:拍手、拍手、…

アナウンス:「もう一度盛大な拍手をお願いします。」

会場:拍手、拍手、…

於 第6回 医療法人財団公仁会 院内研究発表大会

とき:平成21年3月22日(日)

ところ:松江市鹿島文化ホール

解説

平成20年(2008年)6月鹿島病院、前々院長(故)小鯖覚先生が悪性リンパ腫のため松江赤十字病院に入院されました。病と闘うリーダーに「全職員による鹿島病院の唄大合唱」をサプライズプレゼントしようと鹿島レンジャーを含む有志が立ち上がりました。その顛末を報告してきました。天が味方したか、小鯖先生が退院され、先生を囲んだ大合唱が実現することになります。

いよいよフィナーレ。

リハビリテーション伝説 vol.16

リハ部 松浦 祐治

令和という時代に切り替わり、今年はいきなりの10連休、働き方改革関連法といつもと勝手が違う年になり、四苦八苦しそうな予感がしています。リハビリテーション科も入職者3名が加わって新たなスタートを切り、日々の荒波を乗りきってきたいと思います。

さて、昨年度の回復期リハビリテーション病棟における状況を示します。2017年度と比較して、入院・退院患者数や年齢にあまり変化はみられませんでした。居住系施設を含む在宅復帰率は93.2(+7.5)%となりました。また、リハビリ実績指数としても前年度を上回ることができました。身体機能や生活動作の改善、予後予測に基づく判断が上手く出来たでしょうか・・・。

地域の回復期医療・慢性期医療を担えるために質の高いリハビリを提供していきます。

リハビリテーション実績指数

	対象患者数の総和	入棟期間の総和(a)	入院上限日数の総和(b)	(a/b)の総和	FIM運動項目利得の総和(c)	実績指数(c)/(a/b)
2017	198	15,047	20,956	147.0	6,041	41.1
2018	186	13,715	20,037	130	7,073	54.2

新規入院

	患者数(名)	重症者割合(%)	平均年齢(歳)
2017	238	36.9	82.7
2018	239	40.1	82.1

退院

	急性増悪、死亡を除く退院患者数(名)	在宅復帰率(%)	重症改善(4点以上)率(%)
2017	218	85.7	66.2
2018	222	93.2	69.3

第6回慢性期リハビリテーション学会で発表を行いました

リハ部 原 佳奈子

平成31年2月15日～16日に埼玉県川越市で開催された、第6回慢性期リハビリテーション学会に参加させて頂き、「離床困難例に対する免荷式歩行器(POPO)を使用した訓練の有用性～回復期から生活期へ繋げる～」について発表させて頂きました。今回は「地域づくりはリハビリテーション・マインドを持って」という学会テーマの下、約300演題の発表がありました。慢性期に携わる者に今求められている事、患者様が住み慣れた地域で尊厳を持って最後を迎えるために、私たち医療職には何ができるのかについて、

多くの職種からの講演もあり、日々の患者様との関わり方や考え方など、今一度自らを省みるきっかけになりました。初めて全国学会という大きな規模の場で発表する機会を今回は頂き、とても緊張しましたが、当日は参加者の方からも積極的にご質問を頂き、ディスカッションが行え、良い経験をさせて頂きました。発表の準備に協力してくださった皆様感謝致します。



回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会in舞浜・千葉に参加して

リハ部 森山 恵介

2/21～22に一般演題発表にて参加し、「失敗体験から作業療法に対して拒否となった因子の分析」という発表を行いました。介入に難渋したケースだったのですが、改めて文献や資料を参考にまとめ、主治医や上司、同僚からの助言も頂き、知識の整理や関わり方、考え方の見直しが出来て非常に勉強になりました。また2日間に渡り著名な先生方の講演や他施設の取り組みや研究などを沢山聴講する事が出来ました。今大会のスローガンは「宣言。科学と情熱」というものでしたが、私自身、夢や情熱を多分に感じモチベーションの向上にも繋がりました。更にリハビリは科学的な根拠が確立されていない事もあり、研究や勉強は絶えず行い、エビデンスのあるリハビリを選択し提供していく必要がある事も改めて感じる事が出来ました。



公仁会事業報告

H31.1月～3月

患者重症度指数

強化項目

リハビリ数

鹿島病院 ①外来

診療日数61日	1日平均患者数
延べ外来患者数	1,224人 20.0人/日

②病棟 2F特殊疾患病棟

診療日数90日	1日平均患者数
延べ入院患者数	5,206人 57.8人/日
レスピレーター装着延べ患者数	1,653人 18.3人/日
特殊疾患対象延べ患者数	788人 8.7人/日
①有能器等の重症障害	2,424人 26.9人/日
②重度意識障害	1,305人 14.5人/日
③神経難病	
3か月間の特殊疾患対象患者割合	88.1%

3F回復期リハ病棟

診療日数90日	1日平均患者数
延べ入院患者数	4,704人 52.2人/日
回復期リハ病棟対象患者割合	100.0%
平均リハ提供単位数	5.6

直近6か月間の新規入院患者	重症者の割合	36.2%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	92.8%	
直近6か月間の重症改善率(4点以上改善)	60.0%	
直近6か月間のアウトカム実績指	55.6点	

4F療養病棟

診療日数90日	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,632人 29.2人/日
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合	92.0%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	95.7%

4F地域包括ケア病床

診療日数90日	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,371人 26.3人/日
A・C項目患者の割合	21.9%
平均リハ提供単位数	2.3
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	83.0%
ショートステイ延利用者数	21人 0.2人/日

在宅サービス部

①通所リハビリ“やまゆり”

稼働日数74日	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	2,374人 32.1人/日
短期集中リハビリ実施数	250単位 3.4単位/日

②訪問リハビリ“つばさ”

稼働日数58日	1日平均利用者数
訪問リハビリ延べ利用者数	170人 2.9人/日
訪問リハビリ延べ単位数	423単位 7.3単位/日

③訪問看護“いつくしみ”

稼働日数58日	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	298人 5.1人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	627人 10.8人/日
訪問看護延利用者数(医療・介護・リハビリ)	258人 4.4人/日

④鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

稼働日数58日	月平均利用者数
延べケアプラン策定数	465人 155人/月
延べ介護予防ケアプラン数	98人 33人/月

職員数

職種	職員数(名)
医師	7人
薬剤師	2人
P	T 24人
O	T 19人
S	T 6人
看護師(准看護師)	88人
臨床検査技師	2人
診療放射線技師	1人
M	S W 6人
介護支援専門員	6人
介護福祉士(介護職員)	60人
歯科衛生士	2人
管理栄養士(栄養士)	4人
調理員	9人
事務職員	17人
合計	253人

31.1.1現在



- ①部署
- ②趣味・特技は何ですか？
- ③好きなもの・好きなことを教えてください。
- ④一言ご挨拶をお願いします。

入職 50音順



小豆澤 未歩

- ①看護部 3階病棟
- ②家具をみること
- ③二郎系のラーメン・寿司
- ④少しでも早く仕事を覚えて、チームの一員になれるよう頑張ります。よろしくをお願いします。



甲斐 幸子

- ①看護部 4階病棟
- ②旅行
- ③食べること
- ④前職は急性期の病院で勤務してまいりました。今までの経験を生かしながら明るく元気に頑張ります。ご指導宜しくお願致します。



北野 さおり

- ①診療部栄養課
- ②早起き
- ③読書・本屋めぐり
- ④時間はかかるかもしれませんが、一つ一つ確実に覚えられるように頑張りますので、よろしくお願致します。



木村 夏希

- ①看護部 4階病棟
- ②音楽鑑賞
- ③お菓子作り・食べること
- ④はじめは慣れないことばかりでご迷惑をかけるなと思います。早く仕事を覚えて頑張りたいと思いますのでよろしくお願致します。



竹森 和希

- ①看護部 3階病棟
- ②釣り・ランニング
- ③体を動かすこと・服
- ④社会人としてまだまだ未熟でこれからご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、笑顔・前向きな気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



土肥 かなえ

- ①医療相談部
- ②バドミントン
- ③食べること
- ④今年の3月に大学を卒業し、4月から医療相談員として働くこととなりました。大学で学んだ知識などを活かしながら、医療相談部の一員として活躍できるようにがんばります。よろしくお願致します。



那須 紅音

- ①看護部 4階病棟
- ②旅行
- ③食べること
- ④一つ一つの仕事を確実に覚えていき、良い看護が提供できるよう努力していきたいと思っております。よろしくお願致します。



福島 卓

- ①リハビリテーション部
- ②マラソン・サッカー
- ③色々な場所で散歩すること
- ④不慣れなこともあるとは思いますが、多くの方としっかりコミュニケーションをとり、早く職場に慣れ貢献できるよう頑張りますので宜しくお願致します。



松本 宏太郎

- ①リハビリテーション部
- ②水泳・アウトドア
- ③城下町巡り
- ④以前はスポーツ関連の仕事をしておりました。謙虚に仕事を一つ一つ覚え、貢献できるよう日々努力しますのでよろしくお願致します。



三島 梨湖

- ①看護部 2階病棟
- ②音楽鑑賞 (K-POP)
- ③刺身
- ④新社会人で、ご迷惑をおかけすることが多いと思っております。少しでも早く職場に慣れ、患者さんに寄り添った看護を行えるよう頑張ります。よろしくお願致します。



村松 扶充子

- ①看護部 4階病棟
- ②ドライブ・旅行
- ③何も考えずボーッとすること
- ④ゆっくり、焦らず新しい環境に慣れていければと思っております。体力には衰えを感じる今日この頃ですが、頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願致します。



吉村 祐人

- ①リハビリテーション部
- ②バスケットボール・ドライブ
- ③旅行に行くこと
- ④新社会人として、一日でも早く仕事になれ、貢献できるよう明るく元気に頑張りますので、よろしくお願致します。

昇進

- 医療相談部部長代理 小林 裕恵 (医療相談部課長)
- 看護部部長代理 清水 三代 (看護部課長)
- 薬剤部部長代理 武藤 貴広 (薬剤部科長)
- 診療部栄養課課長 澤 幸子 (診療部栄養課課長代理)
- 看護部課長 井上 明子 (看護部課長代理)
- 在宅サービス部通所リハビリテーション所長代理 板垣 陽介 (リハビリテーション部リハビリテーション科係長)
- 在宅サービス部通所リハビリテーション所長代理 山根 正恵 (在宅サービス部通所リハビリテーション係長)
- 看護部係長 小村 和美 (看護部主任)
- 看護部係長 藤井 誠 (看護部主任)
- 事務部企画経理課係長 瀧倉 洋子 (事務部企画経理課主任)
- 事務部総務課係長 今岡 祐子 (事務部総務課主任)
- リハビリテーション部リハビリテーション科主任 福田 容子 (リハビリテーション部リハビリテーション科)
- 診療部栄養課主任 小笹 明美 (診療部栄養課)
- 診療部栄養課主任 松近 由佳 (診療部栄養課)

昇進

- 看護部主任 野津裕美子 (看護部)
- 看護部主任 須磨田理恵 (看護部)
- 看護部主任 谷尻 健 (看護部)
- 看護部主任 南 祐子 (看護部)
- 看護部主任 岩田ひとみ (看護部)
- 事務部医事課主任 向村 仁美 (事務部医事課)

入職

- 福島 卓 (リハ部リハ科 P T)
- 松本宏太郎 (リハ部リハ科 P T)
- 吉村 祐人 (リハ部リハ科 P T)
- 土肥かなえ (医療相談部社会福祉士)
- 北野さおり (診療部栄養課調理員)
- 村松扶充子 (看護部看護師)
- 甲斐 幸子 (看護部看護師)
- 小豆澤未歩 (看護部看護師)

入職

- 木村 夏希 (看護部看護師)
- 竹森 和希 (看護部看護師)
- 那須 紅音 (看護部看護師)
- 三島 梨湖 (看護部看護師)

退職

- 松浦 未佳 (看護部)
- 渡邊 拓也 (看護部)
- 松本百合子 (看護部)
- 青山 安子 (看護部)
- 濱崎 安栄 (看護部)
- 森脇 真純 (看護部)
- 新田由美子 (看護部)
- 伊元 由香 (薬剤部)
- 菊川こずえ (診療部栄養課)





医療法人財団公仁会中期ビジョン2019

医療・介護が一体となり、リハビリテーションを柱としたサービスを展開し、急性期病院をはじめとする医療機関・介護事業所・行政機関との連携を軸に、橋北地区の地域包括システムを支える。

<ビジョン策定の主旨>

高齢化に伴う疾病の多様化・重度化さらにリハビリテーションの要求に応え、橋北地域における地域包括ケアシステムの中核病院として入院医療と在宅医療を継続的に提供するため、中期ビジョン2019を策定する。

<本計画の期間>

この計画は2019年4月から2022年3月までの3年間を期間とする。

1. 良質な回復期・慢性期医療

(1)回復期医療

回復期リハ病床を中心としたリハビリテーションの更なる充実に加え、地域包括ケア病床での短期リハビリテーションを組み合わせることで地域の回復期医療を担う。

(2)慢性期医療

特殊疾患、医療療養病床で難病、医療依存度の高い患者への対応を行い、地域包括ケア病床で入院加療を必要とする高齢患者に準急性期医療を提供することにより地域の慢性期医療を担う。

(3)質の高いリハビリテーション

回復期リハ・地域包括ケア病床でのリハビリテーションを外来・通所・訪問のリハビリテーションに繋げていくことで、地域におけるリハビリテーションを総合的に行う。

(4)外来・訪問診療

入院診療を支えるため、外来のみならず訪問診療を訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、通所リハビリとの連携で充実させる。

2. 在宅生活を支える医療・介護

(1)良質な在宅医療

患者にとって「安心な支える在宅医療」を促進するため、外来・訪問診療と訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所との連携を一層進める。

(2)良質な在宅支援サービス

外来部門、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所ならびに通所リハ、外来リハ、訪問リハが質・量ともに向上し、リハビリテーションを柱とした質の高い医療・看護を提供する。

3. 地域連携 及び 地域貢献

(1)病病連携、病診連携、地域（行政（県・市・保健・福祉・介護）、地区）連携

急性期病院や地域の診療所と継続的・定期的な意見交換会を実施するなど顔の見える連携の更なる強化を行う。また、行政との連携を深め、周辺地区事業にも積極的に関わる。

(2)予防医療や介護技術を地域へ普及

地域住民への啓発活動や医療・介護関連職種に対する勉強会等を通じて、地域に積極的に知識を還元していく。

(3)地域への情報発信

病院の機能や在宅サービス機能、治療成績、行事等についてホームページや広報誌等を活用して、積極的に情報発信を行い公仁会のブランド力を高める。

4. 医療安全・院内感染対策

(1)医療安全

医療・介護サービスを提供する全ての方へ医療安全を担保することは前提条件であり、日常から緊張感をもって業務改善に努める。

(2)院内感染対策

院内感染が起こってからの対策のみならず「発生しないための対策」「予防策をいかに取るべきか」院内感染防止対策委員会の活動だけでなく日頃からの予防教育を継続する。

5. 医療サービスの質の改善

(1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動

日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価3rdGV2.0への参加が決定し2020年1月に更新受審する予定である。日頃の診療行為等の見直しを図り、医療サービスの質の向上に努める。

(2)臨床指標（Clinical Indicator）の活用

診療報酬体系がストラクチャー評価からアウトカム評価重視へ移行する過渡期の中で、当院のアウトカムである在宅患者受入れ率や在宅復帰率、リハ効率、医療区分割合、医療看護必要度、訪問診療回数などを院内外に積極的に発信していく。

(3)患者満足度向上の組織的取組み

継続的なアンケート調査を行い患者ニーズの把握に各部署務め、満足度向上のため継続的に努力する。

(4)施設・設備・環境の整備と充実

患者のQOLに資すること、並びに職員の働きやすい環境の整備を計画的に進める。

6. 人材の確保と育成

(1)人材の確保

良質な医療・介護をより向上させる為、必要人材を適時適切に確保する。

（特に医師は現在の構成を顧みれば確保は急務である。また、薬剤師、看護職員、介護職員においても各々の自己研鑽だけでなく新たな人材の受入が必要である。）

(2)人材の育成

研修会、研究会への参加は今後も計画的・継続性をもって行い、各人の一層のレベルアップを行う。

(3)働き方改革への対応

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」に沿った労働環境を整備し、働きやすい環境作り、離職防止の取組、キャリアアップサポート、福利厚生事業の充実など、魅力ある職場づくりを行う。

(4)学生の受入れ

学生実習の積極的受入れを行い職員のレベルアップを促すとともに、採用機会を増やすような取組みを引き続き行う。

7. 新電子カルテシステムの検討

CIMA/LinkCare、医事システム Hope のハード更新を2022年に控え、今後の電子カルテシステムはどうあるべきか検討委員会を立ち上げて検討する。



なんでも

紹介コーナー



めだか
育ってます

様々な種類のめだかを飼育中です。赤ちゃんも次々と生まれすくすく育っています。大家族めだかです。



めだか～の学校は～♪



地域に広がれ多職種連携の輪

栄養課 管理栄養士 小 笹 明 美

高齢化が深刻となっている昨今です。当院では昨年度より「食」を通して地域連携できればと考え、栄養課が中心となり松江市内の施設対象に嚥下食勉強会を開催してきました。勉強会を進めるなかで、「食」支援に関わるのは栄養士、調理員以外にもたくさんの職種が関わっていることを学びました。今年度は「食」を通じて多職種で連携し、その連携が地域にも広がっていくことを目的に勉強会を定期的開催していこうと考えております。どんな姿勢で食べて頂いたら良いのか？認知症がある方への食事のアプローチ方法は？義歯が合わないなどが原因で食事摂取量が少なくなってきた、ムセがひどいなどなど日頃食事介助をする中で困ったこと、疑問に思ったことを議題にとりあげ外部講師の先生や当院職員により講義を予定しております。この勉強会を通じて、他施設間でのつながりづくり、情報の共有がしやすい地域づくりにも貢献できたらと考えております。



編集後記

春は別れと出会いの季節ですね。

新しい環境に慣れられたでしょうか。体調はどうですか。

新しい方を受け入れる側も、新人の方もコミュニケーションが一番です。

笑顔を忘れずに日々過ごしたいものです(自戒の念を込めて)

まずは口角を上げることから始めてみましょう。気分が少しは変わりますよ。



広報委員長 川谷 清美

■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1

e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/

鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221

訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640

やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645

通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637

鹿島病院デイサービスセンター

TEL(0852)82-2665(代) FAX(0852)82-9221

■印刷元 柏村印刷株式会社